

みんなの居場所をつくっていきたい 浅田 栄子さん

ちゃりていし

地域に根ざした子育て支援
に携わり、現在は親子がつど
い、自由に過ごせる、ひろば
の施設長として活躍する浅
田さんにお話を伺いました。

きっかけは、子どもへの接し方をみて

私は人の輪に入るのが苦手で、わが子の赤ちゃん学級にも一度しか行きませんでした。そんな私が育児サークルを立上げ、子どもが幼稚園に上がった時には、自宅を開放して読み聞かせの会も開いていました。そのきっかけになったのは、あるお母さんが子どもを叱っているシーンに出会ったことでした。自分だったら感情的になってしまいそうなところ、そのお母さんは子どもに、なぜいけないのかを分かりやすく説明していました。私は、「子どもはこうやって話せば、わかるのだ！」と発見し、自分という小さな世界での子育てではなく、いろいろなお母さんと関わりたいと感じました。いろいろな人と関わり一緒に育っていく。親も学びながら、一緒に育っていくことが大切だと思いました。

その後、南区の子育てサークルの代表者が集まる「サークルネットワーク会」に参加することになり、私の子育てネットワークは南区全域に広がっていきました。

子育てサークルの立ち上げは、私の子育て支援の第一歩となり、現在があるのだと思っています。

人のつながりが、今に

「サークルネットワーク会」で活動するお母さんたちは、本当にパワフルで、私も圧倒されるほどでした。南区では年に一度未就学児親子を対象にした運動会が実施されていました。その運動会を保健師さんと共に、パワフルなメンバーと、ワイワイ楽しみながら、企画運営を行いました。第三子妊娠のため、一回お休みしましたが、四



<広場での読み聞かせ>

回運動会に参加しました。運動会を通して、他のサークルの代表者やさまざまな地域の方と出会い、担い手同士のつながりも更に広がっていきました。

「特定非営利活動法人さくらザウルス（以下さくらザウルス）」に関わるようになつたのも、地域の方々と行政のつながりがあったからです。南区区づくり事業として、親子の居場所をつくることになり、私にも声がかかったのです。迷うことなく、「やってみよう！」と思いました。その後、いきなり会計を任せてもらうことになり、戸惑いもありましたが、どんどんはまっていきました。

現在「さくらザウルス」は、スタッフ、ボランティアさんなど、多くの地域の方や子育て世代の方が関わっています。地域の方の協力をいただきながら、また利用者の皆さんにも支えていただいていると感じています。

特定非営利活動法人さくらザウルス

「さくらザウルス」は、地域に根ざしたあたたかな支え合いの中での、子育て環境作りをめざしています。親子で立ち寄り、お話したりホッとひと息ついたり、どなたでも自由に過ごせる「親と子のつどいの広場（以下、ひろば）」として蒔田ひろば弘明寺ひろばを運営しています。乳幼児から未就学児親子が利用でき、予約や登録の必要はありません。

「ひろば」は、親子の交流の場であり、子育て情報の提供、子育て相談のできる場でもあります。乳幼児の子育て中は、迷ったり悩んだり大変なことがいろいろあります。

だからこそ、一人で抱え込まないで、みんなで考え、支え合いながら子育てできる場が必要だと考えています。「さくらザウルス」は、子どもたちにとっても大人にとっても、さまざまな人との出会いの場、育て合いの場でありたいと願っています。

「ひろば」は、毎日多くの親子で賑わっています。親子で立ち寄り、安心できる場がここにはあります。

自分の大切な仕事に

現在は、「蒔田ひろば」の施設長をしています。「蒔田ひろば」全体の運営や、安全を見守る仕事が中心ですが、法人の会計もずっと続けています。事務経験の少ない私には、日常の会計や、財務や労務などは、解らないことだらけで、毎日が勉強でした。

解らないながらも八年続けると、意外と事務仕事も嫌いではなかったのかなという気がしています。ずっと、得意な仕事とも思っていませんでしたし、確かに専門的で難しい仕事ですが、今では会計も自分の大切な仕事の一つになっています。

今、「会計を代わってもらう？」と言われたら、「私の仕事、取っちゃうの？」と思うかもしれません。得意な仕事ではなかったけれど、やっているうちに楽しくもなっていました。苦手なことでも、やればできるのだと感じられました。



＜広場のメンバーとお出かけ＞

子育ては、自分で育てる

私も三人の子どもの子育て中です。乳幼児期に比べたら、確かに手はかからなくなり自分の時間も増えました。でも、大きくなったらなって、またそれなりの悩みや苦労があります。子どもは一日一日成長していきます。それに合わせるように、親も日々成長していくかなければいけないと感じています。子育ては、子どもの成長だけでなく実は、親自身が子どもに育てられているのだと思っています。

あれができない、これができないとついついダメな面が目につきますが、些細な成長も見逃さず、子どもにとっての一番の理解者として、小さな成長をともに喜びあつていける親でありたいと思っています。

大きな話かもしれません、この子どもたちが次代を担う大人になっていくのです。だからこそ今を大切に、大いに楽しみながら、大いに悩みながら子育てをしてほしいと願っています。

やりがいは成長を見られること

私は、子育てのお手伝いができるこの仕事が大好きで、「ひろば」に携わることができてよかったです！と思っています。「ひろば」にいると、子どもの成長を、お母さんと一緒に感じることができ、それがやりがいでもあります。まるで自分がお母さんになったような気持ちで、喜べる機会はなかなかありません。「ひろば」に来ていた子どもたちが大きくなり、ランドセルをしょって楽しそうに歩いている姿を見たときなど、なんとも言えない喜びがあります。

もう一つ、嬉しいことは、利用者からスタッフになってくれるお母さんがいることです。私たちのことも、「ひろば」のことも、よく知っているからこそ、一緒に手として活動できることに喜びを感じます。やっていて、よかったです！と思える瞬間です。他にも、「さくらザウルス」に関わる地域の方には、さまざまな世代の方がいます。狭い世界でなく、いろいろな人と関わり、ともに成長しあえる環境が「さくらザウルス」にはあると思っています。だから、私の毎日もとても充実しています。



＜広場の様子＞



＜広場の様子＞

居場所をつくっていきたい

私は、人が集まる家が理想です。今の生活ではなかなかそんな余裕はありませんが、私にとっては、「ひろば」がもう一つの我が家です。まるで自分の家に人が集まっているようで、実は幸せを感じていたりします。利用者さんも、「ただいま」というような自然な雰囲気で入ってきます。それがすごく嬉しいです。私たちスタッフにとっても、利用者の皆さんにとっても、もう一つの我が家のような、また実家のようなそんな場所でありたいと思います。皆さんにとっての大変な居場所になってくれたら、やっている甲斐があると感じます。

お金と余裕があれば、自分でも「ひろば」をつくりたいという気持ちを持っています。外を歩いていても、空き店舗などを見ると、「ここにひろばをつくりたいな。」などと思ったりもします。いつも、「ひろば」のことが頭の片隅にあるのだと気付く瞬間に、一人笑ってしまうこともあります。

これからも、皆さんのがホッとできるわが家のような、親子の居場所づくりに力を注ぎたいと思っています。

楽しめる環境を一緒につくりませんか？

「活動をしていて辛いことは？」と聞かれことがあります。特に思い当たることはございません。本当は、大変と感じることはたくさんあるのでしょうか、やめたいと思ったこともありません。会計も大変な仕事です。でも、楽しんでやっているので、辛いこととは思わないかもしれません。どうせやるなら楽しまなければもったいないと思っています。また、楽しく思えて、ともに成長できるのが「ひろば」もあります。

まだ、「ひろば」を知らないお母さんもたくさんいると思います。そんなお母さんとも一緒に、新しい関係づくりをしたいと思っています。だから、ぜひ仲間になってほしい。

私はいつでも「ひろば」で皆さんをお待ちしています。

編集後記

「会合に行ってみたら、会計に指名されていた」という浅田さん。もとは「人の輪に入るのは苦手だった」とは思えないほど、人の輪の中心になられています。この活動をきっかけに新たな一面を見つけられたのでしょう。

◆団体概要

NPO 法人さくらザウルス <http://www.sakurazaurus.jp/>

私たち「NPO 法人さくらザウルス」は「親と子のつどいの広場」を受託し、「蒔田ひろば」「弘明寺ひろば」の2つの施設を運営しています。親子が自由に過ごせる居場所のほか、子育て情報の発信や、子育て相談、人材の育成などに取り組んでいる、子育て支援団体です。